

Journal of Occupational Science, Volume 11, 2004 日本語ガイド

An Occupational Look at Temporal Adaptation: Night Shift Nurses

Gallew, Heather A and Mu, Keli

(No 1, pp 23-30)

「時間適応に関する作業的見解:夜勤看護師」

夜勤看護師の経験と適応ストラテジーを探るために、11名の女性夜勤看護師にインタビューした。浮上したテーマは、①夜起きて昼眠る(罪悪感をもたないようにしている)、②人間関係と家族との生活(理解を得るようにしている)、適応ストラテジーのテーマは③「するだけ」という態度でいる(考えない)④夜間の作業戦略を立てる(眠るための儀式を作り習慣化する、スケジュールを立てる、眠らないで起きている方法、お茶、お菓子、歩き回る、自分のサーカディアンリズムを知り合った方法を工夫する)

Bodies Matter: Men, Masculinity, and the Gendered Division of Labour in Nursing

Evans, Joan A

(No 1, pp 14-22)

「身体性:男性,男らしさ,看護労働における性差」

女性の多い仕事である看護職の男性の経験を探ることを目的に、カナダで働く8名の男性看護師にインタビューした。男性看護師の役割は、長所と短所を含む複雑な状況を形成していた。男らしさが看護師の仕事に貢献する一方で、ケアする役割を取り難くなっていた。用心棒として、重い物を運んだり、暴れる患者を抑えたりすることは、ケア提供者として落第ということにもなっていた。用心棒として男性看護師を募集することは危険である。労働における性差を理解する必要がある。

Cake Decorating as Occupation: Meaning and Motivation

Scheerer, Carol R and Cahill, Laura G and Kirby, Kelly and Lane, Jessica

(No 2, pp 68-74)

「作業としてのケーキデコレーション:意味とモチベーション」

雪だるま式サンプリングで12名(11名女性,20~70代)を対象に現象学的質的デザインで研究を実施した。ケーキデコレーションの主観的言いを探ることを目的にインタビューした。その結果、ケーキデコレーションの意味は、①満足できる(この作業が好き)、②フロー経験(我を忘れる)、③健康によい。モチベーションについては、①ほめ言葉、②気遣いを表現できる、③しなくてもよい(他にたくさんすることがある)、だった。

From Drunkard's Path to Kansas Cyclones: Discovering Creativity Inside the Blocks

Dickie, Virginia Allen

(No 2, pp 51-57)

「 drankersパスからカンザスサイクロンへ:ブロックの中の創造性の発見」

キルトメイキング(パッチワーク)をテーマにエスノグラフィー研究をしてきたが、キルトはクラフトであり、アートではないと思っていたので、創造性については見落としていた。今回データを見直し、キルトの作り手の多くが創造性について語っていたことを知った。アートとクラフト、機能性と装飾性、精緻な芸術作品と伝統芸術の間の区別に囚われすぎていた。創造性は生来の才能のように思えるが、行うこと(doing)は創造的であること(being creative)である。私た

ちの日常は、創造的に行うこと (doing creative) であり、自由にできることが創造的であることの核心である。キルトの場合は、ボックスやブロックがあり、創造的に作れるようになっている。ルールやパターンがあるために、初心者は創造性については考えなくてもすむ。安全を保障する自助具のようなものである。米国では、20万人がキルトを行い、一人でする場合でも他の人とのつながりをもっている。この論文を書き始めてから不思議なことが起こった。3年前に始めたままになっていたキルトを仕上げたのだ。

If Work Doesn't Work: How to Enable Occupational Justice

Jakobsen, Klara

(No 3, pp 125-134)

「仕事がうまくいかなければ、作業的公正の実現の仕方」

ノルウェーの若く、高学歴の女性障害者3名にインタビューし、就職を促進あるいは阻害する要因をどう考えるかを調べた。職をもたないことの否定的影響が明らかになった。浮上したテーマは、①就職の際のバリア、②無職による作業疎外 (alienation)、③作業の辺縁化 (marginalization)、④作業剥奪 (deprivation)、に続く作業バランスの不良だった。結果から、障害者の職場の環境的サポートの重要性が強調された。また、無職と作業疎外の関係が明らかになった。

Mothering role identity and competence among parenting and pregnant homeless adolescents

Levin, Mara and Helfrich, Christine

(No 3, pp 95-104)

「妊娠したり、母になったホームレスの人の母親役割のアイデンティティと能力」

ホームレスの青年 (14~21歳) に対する大規模調査から本研究の対象者を選んだ。7名 (16~21歳) のうち5名は子どもをもち、3名は妊娠中だった。4名はアフリカ系、2名はラテン系だった。作業遂行面接 (OPHI-II) を使って母親役割についてのアイデンティティと能力をどうとらえるか調べた。アイデンティティについては、①発達の影響 (母親のモデルがない)、②役割選択 (計画性なし)、③母親役割の重要性、④望ましい将来 (理想の母)。能力については、①個人的な標準レベル、②役割期待に対する充足、③目標に向かって取り組む、というテーマが浮上した。結果から、発達の要因 (家族構成、人間関係) が基本的な動因となっていた。

Occupational Choices of Persons with Schizophrenia Living in the Community

Minato, Miyuki and Zemke, Ruth

(No 1, pp 31-39)

「地域に暮らす統合失調症の人の作業選択」

統合失調症の人がどのように健康のための作業選択をしているかを調べるために、統合失調症者89名を対象に、一日の作業をあげてもらい、ストレスかりラックスかを評定してもらった。3名にはインタビューした。ストレスを減少させるために選ばれていた作業は、睡眠、音楽、テレビ、趣味だった。仕事の作業 (作業所など) や家事は、満足度を高めたり、ストレスをコントロールしたり、時間配分ができ、健康を高めるという理由で選択されていた。

Occupational Profile: An interview with Adrian Saxe

Meltzer, Phyllis

(No 1, pp 40-44)

「作業プロフィール: Adrian Saxe」

世界的な陶芸家。

Occupational Profile: An interview with Elizabeth Yerxa

Meltzer, Phyllis

(No 2, pp 80-84)

「作業プロフィール: Elizabeth Yerxa」

「ベティ」として知られる彼女は、作業科学のリーダーであり、創設者の一人。

Occupational Profile: An interview with Dr. Mike Tyler

Westhorp, Penny

(No 3, pp 135-140)

「作業プロフィール: Mike Tyler」

オーストラリア、アデレード大学のカエル研究者マイク・タイラー（60代、男性）の自宅で3時間インタビューした。英国生まれ、戦争で母を亡くしフランスへ渡ったが、英国に戻り、高卒後農業水産省へ就職した。6～8歳の頃、母が買ってくれた博物学の本が好きでカエルに興味を持った。鯉養殖の仕事でカエルが稚魚を食べ、成長した鯉がカエルを食べるのを見た。1958年から欧州、アジアを回った。オーストラリア、パプアニューギニアに行った。当時カエルは91種だったが現在は214種、そのうち60種は彼が発見した。論文や本は書いているが博士号を取ろうと思ったことはない。一つのテーマで3年も研究することはできない。カエルの皮膚から手術用接着剤が開発された。子ども向けの本を書いたり、ラジオ番組も担当している。趣味はピクルスとチャットネ作り、釣り。現在6～8の研究プロジェクトがあるが、すぐに切り替えられる。

Occupational Science and Phenomenology: Human Activity, Narrative and Ethical Responsibility

Barber, Michael D

(No 3, pp 105-114)

「作業科学と現象学: 人間の活動, ナラティブ, 倫理的責任」

現象学は私たちが偏見から解放し、事柄、人々、人間の活動を新鮮に見ることを可能にする。一人称の視点で経験する日々の世界や活動の意味を描き出すことによって、自然科学も社会科学も豊かになる。現象学は作業科学の助けになる。作業がそれを行う人に、どのような意味があるかを理解する助けになる。現象学はすでに、①人の活動、②ナラティブ、③倫理的責任という3点において作業科学に貢献している。人の活動は、目的、自動的行動、神経生理的プロセスの三層構造である。ナラティブは、自分で説明する、作業を方向付けることになる将来の目的に関連する過去の動機の回復を伴う。倫理的責任も生じる。これが作業の根底にある。作業が中断すれば、ナラティブも変わる。

Occupational Terminology Interactive Dialogue

Lentin, Primorose

(No 2, pp 85-86)

「作業の用語: Act, Action, Active, Activity, Agency」

行為、行動、しわざ、活動・・・人間の作業にまつわる用語の定義と意味

Offerings: food traditions of older Thai women at Songkran

Wright-St Clair, Valerie and Bunrayong, Wannipa and

Vittayakorn, Soisuda and Rattakorn, Phuanjai and Hocking, Clare

(No 3, pp 115-124)

「供給(おもてなし):タイの高齢女性の伝統料理」

高齢女性にタイの正月料理について意味を聞いた。60 歳以上 33 名を対象にフォーカスグループインタビューを行った。母祖母から作り方を教わり、料理を寺へ持って行き先祖に供えていた。功德を積み、自分で働き、よいタイ社会のために貢献するものだと知ることによって、幸福が訪れると考えていた。この習慣を娘や孫に伝えていく。文化における作業の意味を知ることは、作業科学に貢献する。

Recognition of similarities: A methodological approach to analysing and characterising patterns of daily occupations

Erlandsson, Lena-Karin and Rognvaldsson, Thorsteinn and

Eklund, Mona

(No 1, pp 3-13)

「類型認識: 日常作業のパターン特性と分析のための方法論的アプローチ」

日常の作業パターンの特性を知り、分析する方法を開発するために、100 名の働く女性にインタビューした。スウェーデン南部に住む 8500 名を対象に、25~44 歳で 3~6 歳の子どもがいて疾病のない女性 1739 名を抽出した。ランダムに電話をかけ、研究協力の承諾が得られた人が 100 名になるまで続けた。72%が承諾し、拒否した人たちとの間に年齢差はなかった。調査は自宅で面接 (45~60 分) し、7~12 月の週日に前日のことを聞き、それが典型的な日かどうかを 5 段階で聞いた (平均 4.29, 最頻値 4)。時間に沿って何をしたかを聞き、主な作業、隠れた作業 (主な作業の合間にあるか包み込まれている)、予想外の作業 (中断されるような作業) という 3 種のコードを付けた。時系列上に現れるパターンから複雑性の程度で 3 分類した。コンピュータ画面に 2 例ずつ提示し、類似パターンをつなげ、典型パターンを抽出した。このような類型認識が利用できる可能性がある。

Textile Art Promoting Well-being in Long-term Illness: Some General and Specific Influences

Reynolds, Frances

(No 2, pp 58-67)

「慢性疾患の人の健康を高めるテキスタイルアート」

苦悩や疾病症状を克服する手段として、テキスタイル (織物, 編み物) が使われている。病気の克服, 健康の回復 (学習と技能の発達, コントロールと選択, 状態維持と自信, 環境拡大) にテキスタイルが関連することが文献レビューにより示された。7 名の障害者 (6 名は女性, 39~58 歳) を対象に、行っているテキスタイルについてインタビューした。英国のテキスタイル雑誌に広告を出し、研究参加者を募集した。インタビューの結果テキスタイルの特徴は、①材料が入手しやすい、②様々な形態がある、③時間がかかる、④社会的交流がある、⑤自助具が手に入る、⑥家の中になじむ、だった。本研究は対象者数が少なく、予備的研究である。今後は他の作業との比較を行い、なぜテキスタイルを選ぶのかを明らかにしたい。

The Drama of Doing: Occupation and the Here-and-Now

Rowe, Nick

(No 2, pp 75-79)

「ドラマとは行うこと: 作業と今ここで」

観客の語りを即興劇として演じるプレイバックシアターのパフォーマーの経験から考察した。身体、感情的刺激、個人的記憶、想像、文化、芝居の知識、記憶の集積、協働の創発という事柄を一人の40代男性のパフォーマーが語った。一期一会が大切である。芸術は「今ここで」を描く。過去は常に、今ここで明らかにされ、反応は行うことによってなされる。たとえば、「君の前に道はない、君の後ろに道はできる」(オーストラリア原住民)、「今日は何の日?」「今日は今日の日」「ボクの大好きな日」(くまのプーさん)